

ハロー フレンズ



2014年2月号(隔月刊) 第130号

埼玉県指定・認定NPO法人になりました

ご寄附をいただいた際、税制優遇措置があります

明けましておめでとうございます。皆様お元気に新年を迎えられたことと思います。いつも温かいご支援ご協力をありがとうございます。

ふじみの国際交流センターは昨年末の12月24日付で「埼玉県指定NPO法人」に、12月27日付で「認定NPO法人」になりました。26年初頭に、平素からふじみの国際交流センターの活動を支えて下さっている皆様にそのお知らせができることを、とてもうれしく思っております。おかげさまで、ふじみの国際交流センターへの寄附金は税額優遇の対象となります。寄附をしてくださる皆様には節税をしていただき、私たちはその資金を、外国人の自立支援の為に活用させていただき、安全で平和な地域づくりに努力したいと思っております。これからもどうぞよろしくお願ひします。(理事長 石井 ナナエ)

寄附者に対する税制優遇

- ①寄附をした個人が寄附金控除を受けられる(所得税・住民税)
- ②寄附をした法人の損金算入限度額が拡大される(法人税、法人事業税など)
- ③寄附をした相続財産が非課税になる(相続税)



【DV防止出前講座】

デートDVと予期せぬ妊娠

2013年12月14日ふじみ野市サービスセンター 2F会議室において DV防止出前講座が開催されました。今年、市民向けの講座として立教大学兼任講師の門美由紀先生をお迎えし、「デートDVと予期せぬ妊娠」をテーマに研修会を行いました。

ドメスティック・バイオレンス(DV)が、最近10代、20代の若いカップルの間でも起こり社会問題になっています。「デートDV」と呼ばれるこれらの暴力は将来、深刻な夫婦間のDVにつながる可能性が高いとも言われています。

10代から20代の時に、デートDVの被害にあっている割合は、女性が13.7%、男性が5.8%で、20代の女性の23.4%、4人に1人が被害にあっているという調査結果もあります。(内閣府『男女間における暴力に関する調査報告書』より)

今回の研修では、講師の話だけでなく、ビデオ視



聴、ロールプレイ、グループワークなどを通して、受講者みずからが問題点を考え、それらにどう対処していったらよいかを話し合いました。

DVは知っているが、デートDVは知らないと答える高校生が多いという調査結果があります。どういふケースがデートDVか知らない若いカップルの場合、交際相手からの暴力について当事者意識を持つことは難しいのではないかと。たとえば携帯電話のメールチェックを頻繁に行う事や、友達や家族と連絡を取ったり会ったりすることを嫌がることなど、相手を過度に束縛することもDVだという事を知らないのではないのでしょうかと思われます。また好きな相手に嫌われたくないために我慢をしているうちに、相手の暴力がエスカレートする可能性もあり、相談したくてもどうしたらいいのか分からず一人で悩むケースも考えられます。

携帯電話の普及に伴い、子ども達の交友関係が親や家族にわかりにくくなっている点も、問題として挙げられました。

今回の研修を通して、デートDVは意外と身近で起きているかもしれないという事と、当事者である若い人たちに、もっとこの問題を積極的に伝えていく必要があると感じました。

(文責:上島 直美)

デートDVの被害者・加害者にならない
あなたの子どもを被害者・加害者にしないために

12/14
12月14日(土)
9:00-12:00

デートDVと予期せぬ妊娠

講座内容

- ▶ デートDVって?
- ▶ DV、デートDVの意識度チェック
- ▶ VTRを見て考えよう
- ▶ グループで話し合ってみよう

さまざまな(形の)暴力
からだ・ところ・お金・性

「子どもの様子がおかしい」それってデートDVかも

これって本当の愛?
ひどいやきもち
携帯電話をチェックされる
言うことをきかないと怒る

目をそむけなくて一緒に考えましょう

講師:
立教大学兼任講師
門 美由紀

会場:
ふじみ野市サービスセンター 2F 会議室
東武東上線 上福岡駅西口徒歩 2分
Tel: 049-261-0353

申し込み・お問い合わせ
NPO 法人 ふじみの国際交流センター
Tel: 049-256-4290 Fax: 049-256-4291

後援:
ふじみ野市

恒例のお楽しみ会を開催

12月21日(土)に恒例のお楽しみ会(パーティー)を開きました。

今回は、新座のNPO「親の会・絆」と、ふじみ野市協働推進課との協力で、お昼ご飯の差し入れがあり、5時間の大パーティーとなりました。

参加者は、子ども16名 保護者3名 ボランティア7名、また他団体の協力者が10数名おり、大盛況でした。

午前中は、たくさん用意したゲームに熱中しました。一番人気があったのは、男子対女子で

行った“風船バレーボール”でした。(勝ったのは、もちろん女子チームです!!)

お昼は、美味しいカレー、から揚げ、マカロニサラダをおなか一杯食べ



ました。コロンビアの珍しい料理の差し入れもあり、異文化の交流もたっぷりできました。

午後からは、“プラレール”をセットしていただき、小学生は声を出しながら、楽しんでいました。最後は、みんなで“シェーハ”ゲームで盛り上がり、中学生のお礼の言葉で終わりました。

たくさんみなさんのご支援を頂き、今回は充実したパーティーになりました。ご協力いただいた皆様方、ありがとうございました。

(文責:山畑 博子)



NEC多文化共生プログラミング講座を体験

1月7日、国際子どもクラブの子どもたち19名がプログラミングソフト「スクラッチ」のワークショップを体験しました。

会場はふじみ野市役所第2庁舎。IT時代で小さなころからパソコンやスマートフォンなどになじみのある子どもでもプログラミングは初めてです。

スクラッチでは難しいプログラム言語は不要で「10歩あるく」「回転する」「ニャーと鳴く」など小さなブロックを組みあわせどんどんプログラムができていきます。「わーおもしろい!」「もっとやりたい〜」と歓声が響きました。今日の体験が子ども達の自信となり夢を持って育っていけるきっかけになるといいなと思いました。



共催:NPO法人新座子育てネットワーク、協賛: NEC 協力:ふじみ野市、「小学生からはじめるわくわくプログラミング」著者阿部和弘先生

玄関の横のもう一つの入り口

藤林 美穂

東京入国管理局の玄関の横に、一般の人たちが入るのとは別の、もう一つの入り口があります。ここは、同じ建物の上階に収容されている人たちに面会するための受付です。私も、時々収容されている人の家族から依頼を受けて面会に行くことがあります。

1階で申請用紙を確認してもらった後、7階までエレベーターで上がり、もう一度そこで受付をします。差し入れがある場合には、ここで係官に渡すこととなります。しばらくすると名前を呼ばれて面会室の鍵を渡されます。そのとき、携帯やカメラ、大きな荷物などは待合室のロッカーにおいていかなければなりません。

待合室のドアから入ると、細い廊下の両側に小さな面会室が左右10室並んでいます。面会の対象者が男性なら主に左側、女性なら右側の部屋を使うことになっています。面会時間は30分。私が相手と話をするのはこれでも十分ですが、家族で来た人にとっては短く、あっという間に面会時間は終わってしまいます。同じ人は、一日に一回しか面会はできません。面会者のいる場所と、収容されている人とは、強化プラスチックの透明な壁で隔てられています。収容されている人からは外に電話できるのですが、外部から中にいる人に電話することはできないので、面会に行くことを知らせるには、相手から電話があったときに伝えるか、実際に面会に行ったときに次回来る日程を伝えるしかありません。

オーバーステイの外国人が捕まって収容された場合、東京入国管理局に収容されているのは長くて3~4か月くらいです。各県にある入管すべてに収容施設があるわけではないので、たとえば東京入管には長野や新潟で捕まった人も収容されています。捕まってから2か月のうちに

退去強制(強制送還)になるかどうかは決定されるのですが、退去強制令が出ても帰国に同意しない人は、東京入管からさらに茨城の牛久収容センターに送られます(関東地方の場合)。牛久は交通が不便なところなので、ここに移ってしまうと面会にもなかなか来てもらえず、精神的に参ってしまう人もいます。

収容されてしまった人に対して、できることは限られています。もしその人が日本人やビザのある人と結婚する予定だったり、子どもが生まれたりしたら、それをアピールして仮放免・在留特別許可を求めることはできますが、それも退去強制令が出るまでの2か月弱の間に法的な結婚や認知をした上で在留特別許可を求める手続きに入らなければなりません。本人が収容されている中で本国から証明書類を取り寄せることの困難に加えて、長くオーバーステイしている人の場合はパスポートもないため身分証明ができず、何の証明書もとれない、という人も少なくありません。



● 筆者紹介

行政書士(ライフ行政書士事務所)。NGOで働いたり、フィリピン人支援団体でボランティアしたりした後、行政書士開業。毎日いろいろな国から来たいろいろな人の話を聞いて、「在日外国人」の多様性に、びっくりすることの連続です。

にほんごを教える

小林 曉美

ボランティアで日本語を教えています。ある時、小学6年用の漢字帳で勉強している学習者の相手をしていました。「関」という字の例に出ていたのは「関所」。英語で意味を調べ、ノートに「Check Point」と書いてあります。私「関所は歴史上のものだから今はないよ。」彼女「ううん、あります。高速に乗っていて止められる所。」私「それは料金所、だよ。」彼女「空港にあります。」私「それは、税関で関所じゃないよ。」彼女「税関じゃない、空港の外にあって、車を止められてID

を見せろと言われるところ」それは、検問(所)です。

Check Pointを英和辞典でひくと、検問所とあります。確かにどれも現代の関所のようにではあるけど、やはり「関所」は江戸時代のアレでしかない。彼女は現代に関所がないことを分かってくれたのでしょうか？この先その言葉が役に立つ日が来るのでしょうか？漢字ひとつで色々考えさせられた一日でした。

見送りの三振より 空振りの三振

パート II

石井 ナナエ

〇月〇日

「夏休みのインターン体験が有意義だった」と、毎週金曜日にボランティアに来てくれる中国人留学生がいる。一人っ子政策で両親に大切に育てられたせい、素直で心優しい好青年で、彼と話すのがとても楽しい。彼は「日本人はもっとオープンマインドになってほしい」と話す。外国人留学生が一番欲しているのは日本人ともしっかりと話をすること。お互いに心を割って話さなければいけないとも言う。宗教と政治の話はタブーと思っているのは日本人側の考えで、もしかしたらそれこそがお互いを解かり合えるキーポイントなのかもしれない。

〇月〇日

FICECのキーワードが決まった。「多文化が未来を拓く」。

毎日外国人と関わり、相談に乗り日本語を教えている現場担当者としては、実際の所このキーワードの実現は夢のまた夢のような気がしないでもない。もしかしたら日本人だけの社会のほうがシンプルで平淡かもしれない。しかし江戸時代ならともかく、1日に2万5千人の外国人が来日し、その2.5倍の日本人が海外に出かけている今、後ろを向いてばかりはいられない。なにより日本で暮らす203万人の外国人は皆、入国許可を得て入国し、在留資格を

持って在留している人達なのだから。

多文化共生の基本は通分。3分の1+4分の1はそのままでは計算できないが、12分の4+12分の3に通分すれば足し算になる。私は中国人だから分母は3でなければい、私は日本人だから分母は4でなければいやと言っていたのでは、せっかく200カ国の人が一緒に住んでいるのにプラスにならない。お互いが歩み寄って初めて、「色々な国の人が出てよかった」と思える地域になると信じている。何しろ日本の食糧自給率は39%。物だけは輸入するが人は入ってきてはだめとは言えない。外国人と日本人が歩み寄って協力し合えば活気に満ちた住みよい地域になるに違いない。そして初めて、多文化が新しい時代を拓くことになるのだろう。

今日もFICECの事務所は大勢の日本人と外国人で賑わっている。

「公園に南米人らしいホームレスが住み着いている。夜になると中学生がその人に石を投げつけている。何とかしてください」と電話が入った。当番と、ブラジル人スタッフと3人で電子辞書を持って公園に急いだ。「to be or not to be」シェイクスピアの名セリフが頭をかすめた。未来が拓くにはまだ時間がかりそうだ。

川越市の人材派遣会社（株）喜和工業

これまで1000人近くを派遣しています

株式会社喜和工業は、埼玉県川越市にある外国籍従業員が多く在籍する派遣会社です。事業管理部の金山様からお話を伺いました。

「遠い祖国を離れた日本に在住する弊社従業員が、これからの日本でもっともっと夢や希望を語れるような会社で在りたい」これが私達の会社の理念です。

今まで、1000人近くの人が収入を得て生活しています。国籍は問いません。中国、ネパール、ベトナム、フィリピンなど、在留資格と条件が合えば、仕事を紹介します。

日本語が話せない外国人も働くことは可能です。単純な作業を分担して行う仕事なので、言葉の問題はさほどありません。まじめであれば仕事は出来ますが、基本的なマナーは身につけてもらうようにしています。

在留資格は働けるビザなら何でも大丈夫です。家族滞在の人でも、資格外活動の許可を得ていれば、その範囲で働くことができます。

スキル診断は特に行いません。外国人がたくさん働いている工場などでは、機械化が進み、特にスキルは問われません。スキルよりまじめさが大切です。まじめな人なら適材適所で仕事を紹介することができます。もちろん女性でも大丈夫です。

長く勤めている外国人もたくさんいます。今の仕事は流通加工、コンビニのお惣菜といった仕事が多く、休みが少なかったり、拘束時間が読めなかったりする仕事ですが、外国人の方は一生懸命取り組んでいます。

食品関係の仕事は衛生面や品質面が重視されます。したがって、服装などにも気をくばり、髪形などにも注意を払わないといけません。中にはそれが理解できない人もいます。仕事をする前に教えても、理解するのが難しい場合は、現場で叱られることで学ぶこともあります。

時間を守るという基本的なルールは、概ね守られています。しかし、ルールを守るためには、それぞれの職場のルールを理解する必要があります。日本語が分からない外国人にはそのルールを理解することが難しいです。大切なことは繰り返し教えるのですが、場合によっては通訳が入って説明することもあります。

日本語が話せることは基本ですが、それが出来ない外国人も、まじめな態度で仕事に臨めば大丈夫な事が多いです。一番大切な事は、まじめなことです。

FICECに「仕事をしたい。」と相談にくる外国人は少なくありません。言葉やスキルの問題で働きたくてもどうしたらいいのか分からないという外国人にとって、株式会社喜和工業は心強い存在だと思いました。

株式会社喜和工業 TEL 049-242-0442

ふじみ野小学校での【国際理解】授業に参加 外国人ボランティアの感想

昨年12月13日、富士見市ふじみ野小学校へ、社会科の授業の手伝いに4人の外国人ボランティアと行ってきました。「外国人にも優しい街づくり」という課題で、子ども達は学習を進めているようです。事前授業で調べた中で、疑問に思ったこと等を4人の外国人講師に熱心に質問していました。こんな勉強をした子ども達が大きくなったら、きっと住みやすい街が出来るのではないかと期待しています。(文責:山畑博子)

劉圭霖(中国)

ふじみ野小学校に行って、授業支援をしました。センターの皆様のお陰で、教壇に立つチャンスを受けて、とても光栄だと思いました。子ども達に聞かれた質問は「外国人にとって、今まで役に立った施設はどんな施設でしたか」とか言うような、意外とレベルの高い物でした。今の子ども達は考えが深く、頭がいいなと感じました。私の小学校時代にはこういう直接の異文化交流の機会がなかったので、今はこんなプログラムがある日本の小学生は、幸せだと思います。

葉 秋君 (台湾)

始めに自分の名前を漢字で書くと、子ども達は「漢字が書けるの？」と驚きました。また、台湾は沖縄くらい暖かいというのも驚きだったようです。台湾は屋台料理が安くておいしく外食がとてもさかんです。子ども達は「食べてみたい」とか「台湾に行きたい」と言ってくれました。

学校の環境は日本と台湾は違います。台湾では1クラス50人もいて1学年10組くらいあります。先生も全員を覚えるのは大変です。宿題も台湾では毎日10枚くらいです。日本では1クラスの人数は少なく、ひと学年4組くらいなのでみんなに目が行き届き、教育はともいいと思っています。

他の文化を知ることで自分の幸せに気が付くということがあると思います。

チェリン(フィリピン)

「10数年前日本に住み始めたころ、池袋駅で迷子になりました。通行人に英語で話しかけると、日本人はみんなびっくりして、“英語 ノーノー”と言って、逃げ出してしまいました。皆さんは恥ずかしがらないで、私に沢山質問してね。」英語講師の経験のあるチェリンさんが、そう5年生の子ども達にこやかに話しかけると、はずかしがり屋の日本の子ども達は、一斉に下を向いてしまいました。(アハハ)

(文責 山畑)

ニーランティ(スリランカ)

子供たちが外国の文化や習慣の違いに興味を持ってくれて、色々質問をしてくれました。スリランカの事を少しでも知ってもらえてうれしいです。

また今回の授業で子供たちが違う文化や習慣によく分からない事があっても、その「違い」を心に留めておいてほしいと思います。大人になって、その「違い」を理解できる時がくるかもしれません。その時、お互いの文化や習慣の違いを尊敬し合えると思います。

そして、日本にいる外国人にどういった助けが必要か？子供たちが真剣に考えてくれていた事に一番心を打たれました。楽しい時間をどうもありがとう！



センターの活動をご支援ください 会員・賛助会員・寄付のご案内

●活動を担う会員……正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

●センターを財政的に支える会員……賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511
口座名：ふじみの国際交流センター

ご寄付をいただいた方々 ご支援ありがとうございます

●2012年4月～(50音順・敬称略)

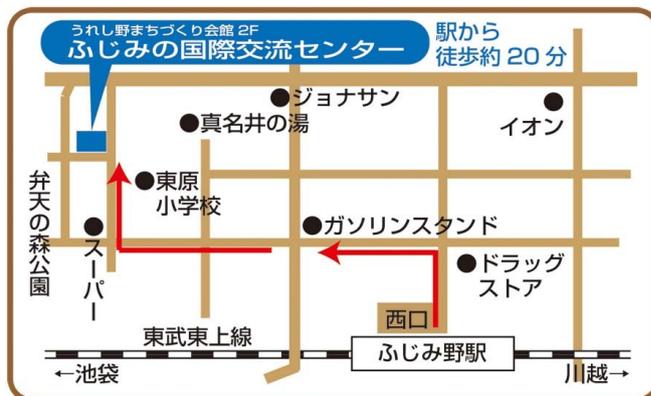
阿澄康子、安部幸枝、穴沢エミリン、新井順子、新井良司、荒田光男、有山高司、イオン(株)大井店、石井ナナエ、伊藤真弓、岩田仁、上島直美、上原美樹、太田原裕、大西文行、小熊千寿子、小原知子、葛西敦子、加藤久美子、神田順子、国際ソロプチミスト埼玉、木場ひろみ、駒形一夫、佐藤義治、白砂正明、菅山修二、鈴木譲二、関ニーランティ、多ヶ谷實、武田和子、立麻医院、立麻肇子、田中つや子、寺村璧如、戸塚成子、内藤忍、中嶋恵津子、中村禎作、中山明子、西川由比子、沼田伊玖俊、野沢弘子、野辺頼之、萩原千代子、長谷川雅恵、長谷川正江、浜本由里子、東入間地区遊技業防犯協力会、FICEC英語教室参加者一同、藤林泰、藤巻則幸、彦由章、松浦康介、森和也、山崎友理、山畑博子、匿名希望3人

外国人生活相談 無料

月曜日～金曜日 10:00～16:00

電話：049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら
センターをご紹介ください。



サービス料金表

ふじみの国際交流センターでは、センターの設備や、会員・スタッフの技能により、様々なサービスを行っております。ぜひ、ご利用ください。

種別	料金	対象
印刷機	マスター（製版代） 1枚100円 印刷代1枚1円	市民団体 個人
コピー機	1枚10円	
製本機	A4判1冊50円	
折り機	無料	

種別	内容	料金
講師派遣	国際理解教育	3,000円＋交通費
	外国料理教室	5,000円（材料費別途）
	語学教室	内容・予算に応じて相談
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	
編集・出版 ホームページ	多言語による情報誌・ガイドブック、ホームページの制作	1枚5,000円
	日本語によるチラシデザイン（A4判）	
翻訳	英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、ロシア語、タガログ語、スペイン語、タイ語、ベトナム語 婚姻関係、ビザ申請、履歴書	A4判1頁、40字・30行 1枚1,500円
	その他の文書	A4判1頁、40字・20行 1枚3,000円より
通訳	英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、ロシア語、タガログ語、スペイン語、タイ語、ベトナム語	半日5,000円より＋交通費

特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター

〒356-0053 埼玉県ふじみ野市大井2-15-10

うれし野まちづくり会館2階

Tel:049-256-4290 Fax:049-256-4291

ボランティア活動に、ご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。